

**製品名: ER $\beta$  (リン酸化 Ser105) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04644**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	59kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ESR2
別名	ESR2; ESTRB; NR3A2; Estrogen receptor beta; ER-beta; Nuclear receptor subfamily 3 group A member 2
遺伝子 ID	2100.0
SwissProt ID	Q92731
免疫原	抗血清は、ヒトエストロゲン受容体 $\beta$ の Ser105 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

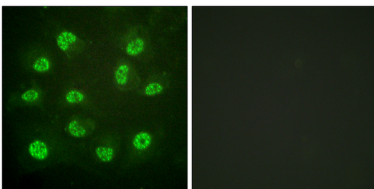
**背景**

この遺伝子は、エストロゲン受容体ファミリーおよび核内受容体転写因子スーパーファミリーのメンバーをコードしています。遺伝子産物は N 末端 DNA 結合ドメインと C 末端リガンド結合ドメインを含み、核、細胞質、ミトコンドリアに局在します。17 $\beta$ -エストラジオールまたは関連リガンドに結合すると、コードされているタンパク質はホモまたはヘテロ二量体を形成し、特定の DNA 配列と相互作用して転写を活性化します。一部のアイソフォームは、他のエストロゲン受容体ファミリーメンバーの活性を優性に阻害します。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエントがいくつか報告されていますが、これらのバリエントの一部については、全長の特徴が完全に解明されていません。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],domain: 3 つのドメイン（調節 N 末端ドメイン、DNA 結合ドメイン、C 末端ステロイド結合ドメイン）から構成されます。function: 核内ホルモン受容体。ESR1 と同様の親和性でエストロゲンに結合し、エストロゲン依存的にエストロゲン応答配列（ERE）を含むレポーター遺伝子の発現を活性化します。アイソフォーム  $\beta$ -cx はリガンド結合能を欠き、ERE 結合活性が全くないか非常に低いため、リガンド依存的なトランス活性化能が失われます。ESR1 および ESR2 による DNA 結合は、リガンド非存在下では 37°C で急速に失われますが、17 $\beta$ -エストラジオールおよび 4-ヒドロキシタモキシフェンの存在下では、高温での DNA 結合の消失はより緩やかです。オンライン情報: エストロゲン受容体エントリー,類似性: 核ホルモン受容体ファミリーに属します。類似性: 核ホルモン受容体ファミリーに属します。NR3 サブファミリーです。類似性: 1 つの核受容体 DNA 結合ドメインを含みます。サブユニット: ホモ二量体として DNA に結合します。ESR1 とヘテロ二量体を形成できます。NCOA3、NCOA5、NCOA6 コアクチベーターと相互作用し、標的遺伝子の転写を大幅に増加させます。PELP1 および UBE1C と相互作用します。アイソフォーム beta-2/cx は、ESR2 よりも ESR1 とヘテロダイマーを優先的に形成し、ESR1 による DNA 結合を阻害します。AKAP13 と相互作用します。DNMTIP2 と相互作用します。TXNRD1 のアイソフォーム 4 と相互作用します。組織特異性: アイソフォーム beta-1 は精巣と卵巣で発現し、心臓、脳、胎盤、肝臓、骨格筋、脾臓、胸腺、前立腺、結腸、骨髄、乳腺、子宮でも低レベルで発現しています。子宮骨、乳房、卵巣の腫瘍細胞株にも見られますが、結腸腫瘍と肝臓腫瘍には見られません。アイソフォーム  $\beta$ 2 は、脾臓、胸腺、精巣、卵巣で発現しており、骨格筋、前立腺、結腸、小腸、白血球、骨髄、乳腺、子宮にも低レベルで発現しています。アイソフォーム  $\beta$ 3 は精巣に存在します。アイソフォーム  $\beta$ 4 は精巣で発現しており、脾臓、胸腺、卵巣、乳腺、子宮にも低レベルで発現しています。アイソフォーム  $\beta$ 5 は、精巣、胎盤、骨格筋、脾臓、白血球で発現しており、心臓、肺、肝臓、腎臓、膵臓、胸腺、前立腺、結腸、小腸、骨髄、乳腺、子宮にも低レベルで発現しています。脳には発現していません。

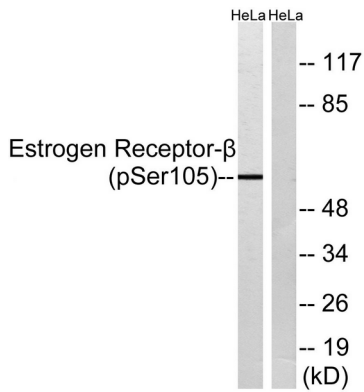
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

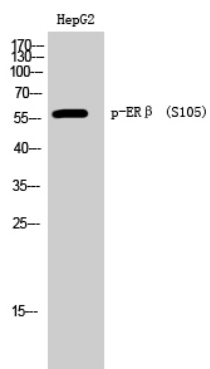
## 画像データ



エストロゲン受容体  $\beta$  (リン酸化 Ser105) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



エストロゲン受容体  $\beta$  (リン酸化 Ser105) 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 ER $\beta$  (S105) ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析